

宮崎県拠点だより

宮崎県拠点の
Webサイトは
こちらから



「オール宮崎」で 輸出拡大を目指す!!

「みやざき輸出促進連絡会」を毎月開催

宮崎県内の輸出事業者や輸出希望者へ一次的なアプローチを行い、事業者からの要望に応じて、関係機関に情報を提供し実務的な相談を行うなど、効果的な取組体制を確立するため、平成30年5月から「みやざき輸出促進連絡会」(事務局：宮崎県拠点)を設立し輸出促進に取り組んでいます。

連絡会メンバーは、宮崎県総合政策部・商工観光労働部・農政水産部、ジェトロ宮崎、日本政策金融公庫宮崎支店、みやざきフードビジネス相談ステーション、宮崎県農業法人経営者協会、宮崎銀行です。

小浦製茶（宮崎市）を訪問

11月16日、みやざき輸出促進連絡会メンバーで、宮崎市高岡町一里山地区を中心に有機茶の栽培・輸出に取り組む小浦製茶を訪問し、輸出の現状と課題や今後の取組みについて意見交換を行いました。

小浦製茶は、地域の生産者をリードし、有機栽培及び有機JAS認証の取得を推進し、輸出拡大に取り組んでいます。



一里山地区の有機茶園



小浦代表（左から3人目）から有機栽培の課題を聞くメンバー

農林水産物・食品の輸出を意欲的に取り組もうとする生産者・事業者等のサポートと連携を図る「GFPコミュニティサイト」に登録した事業者には、農林水産省が「輸出の可能性」を診断し、サポートを行います。

農林水産省が
診断・サポート
します



GFPとは、農林水産省が推進する日本の農林水産物・食品輸出プロジェクトのことです。

● 詳しくは、GFP事務局HP を !!
<https://www.gfp1.maff.go.jp/>

●宮崎県拠点WEBサイトに、輸出に関するページを新設しました

<https://www.maff.go.jp/kyusyu/miyazaki/index.html>



宮崎県内で輸出に取り組む優良な事例をご紹介します

大学生と意見交換しました！！

11月27日、宮崎産業経営大学の経営学部学生16名と宮崎県拠点の井田地方参事官が意見交換を行いました。

井田地方参事官が「食料・農業・農村基本法の見直し」「みどりの食料システム戦略」「宮崎の農業」などについて60分の講義を行った後、学生からは、「有機農業」「AIの農業活用」「農産物の価格形成」「若者の就農」など活発な意見が出されました。



説明する井田参事官



講義風景



発言する大学生

「徳重紅梅園」が「九州農政局ディスカバー農山漁村の宝」に選定！！

12月11日熊本市において、「令和5年度ディスカバー農山漁村（むら）の宝九州ブロック表彰式」が開催され、都城市の有限会社徳重紅梅園が、「九州農政局ディスカバー農山漁村（むら）の宝」に選定されました。昭和37年以降、土づくりにこだわり育ててきた梅園と地域伝統の加工法を継承し、持続的に取組を行っていることが評価されました。
(写真左から2番目)



令和5年度 豊かなむらづくり全国表彰事業
及び ディスカバー農山漁村(むら)の宝
九州ブロック表彰式

●「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」は、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の地域資源を引き出すことにより地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への波及を図るものです。

トピックス 水稻の作柄

令和5年産の宮崎県における水稻の作柄は、「平年並み」（作況指数99）、このうち普通栽培は「やや不良」（作況指数97）、早期栽培は「やや良」（作況指数102）でした。

また、宮崎県の10a当たり収量は、普通栽培は485kg（前年に比べて5kg増加）早期栽培は487kg（前年に比べて15kg減少）となりました。

●本紙の記載内容や農政についてのご質問、ご意見等お気軽にお問い合わせ下さい。

●宮崎県拠点 地方参事官室
TEL 0985 - 24 - 2365
〒880-0801 宮崎市老松2丁目3-17

編集後記

宮崎県の農畜水産物の輸出品目は、畜産物が全体の7割を占めていますが、茶も欧米での健康志向の高まりを受けて輸出額を伸ばしています。今後も、宮崎茶の海外での更なる販路拡大が期待されます。

この時期は鳥インフルエンザが心配されますので、その発生を防止するための対策が重要です。今年は辰（龍）年、力溢れる活力ある一年になるよう、そして、穏やかに過ごしたいものです。(H)